

國學院大學學術情報リポジトリ

中世和鏡の出土・分布傾向に関する基礎研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鳥越, 多工摩, 富山, 悠加, 内川, 隆志 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001927

中世和鏡の 出土・分布傾向に関する基礎研究

鳥越多工摩¹⁾・富山悠加²⁾・内川隆志³⁾

はじめに

本基礎研究は、國學院大學学術資料センター考古学部門における「大学ミュージアムにおける『文化財研究』基盤の整備」プロジェクトの一貫で実施している祭祀遺跡DBの構築SP事業中、紀年銘鏡集成DB等の再構築における情報整理事業として実施したものである。分析に用いた基本データとしては、平成16年度～18年度科学研究費補助金（基盤研究（C）研究代表者 青木豊 課題番号165204465）で実施した『全国和鏡集成』の集成データに平成19年から平成28年までのデータを追加した総数980遺跡のうち、中世和鏡の出土が報告された618遺跡を対象としている。データの収集は内川隆志、鳥越多工摩が実施し、基礎的な作業に関しては國學院大學学術資料センター客員研究員の鳥越多工摩と國學院大學大学院博士課程前期在学の富山悠加によって実施した。（内川）

分析方法

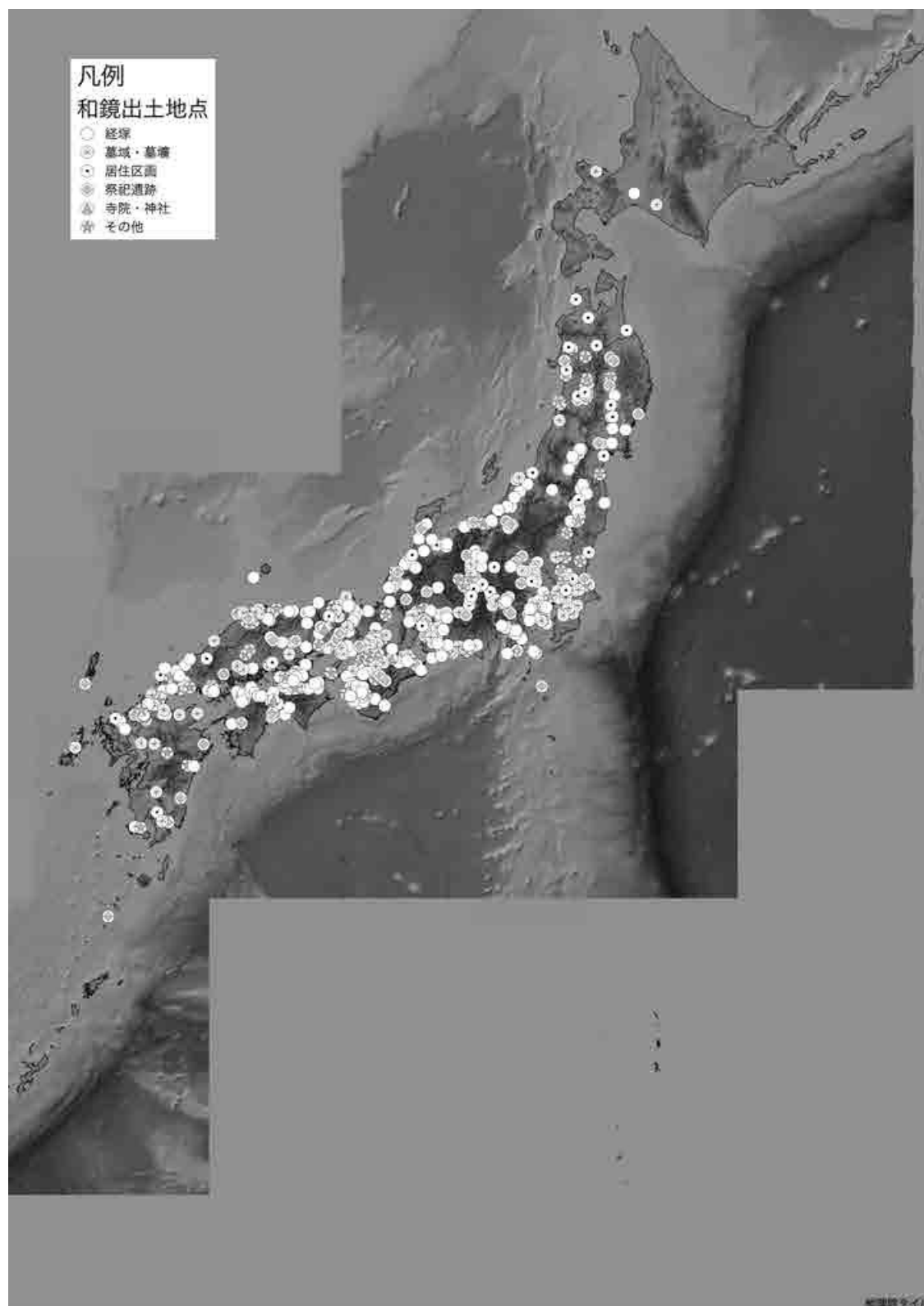
本基礎情報では、中世和鏡が出土した遺跡の性格と時期を、報告書等の記述に基づき、便宜的ではあるが以下のように設定した。

遺跡の性格を、経塚・墓域・墓壇、居住区画、祭祀遺跡、寺院・神社、その他の6つに区分した。居住区画とは、集落址や住居址、居館・城館などから出土した事例であり、祭祀遺跡とは、地鎮や池中（水中）奉納と考えられる遺跡・遺構、寺院址・神社址とされる遺跡、境内などから出土したとして報告された事例である。寺院・神社としたものは、寺院・神社に中世和鏡の収蔵が確認されているが、収蔵に至る経緯が不明なものとしている。収蔵の経緯が明瞭ないいわゆる奉納鏡は、稿を改めて取り上げる。

また、中世を平安中期、平安後期、平安末期～鎌倉初頭、鎌倉時代、室町時代の5時期に区分した。この時期区分はあくまでも遺跡を対象としたものであり、和鏡の製作・使用・廃棄の年代ではないことに注意されたい。なお区分に古代を含めているが、それは和鏡の出土事例が古代の終わり頃から急増しているためである。

地域区分では、北海道・東北地方、関東地方、甲信越・北陸地方、東海地方、近畿地方、山陽・山陰地方、四国地方、九州・沖縄地方の8地域を設定した。これにより、1地域につき70～120程度の遺跡を振り分けることができた。

さらに上記の設定に基づき、中世和鏡が出土した遺跡の分布図を作成した（第1～9図、表1～10）。分布図の作成にはQGIS 2.18を使用し、分布図の背景地図には国土地理院が提供している地理院タイラ（白地図および色別標高図）を使用した。遺跡所在地から緯度経度への変換には、東京大学空間情報



第1図 中世和鏡が出土した遺跡

表1 中世和鏡の地域別出土遺跡数

	経塚	墓域・墓壙	居住区画	祭祀遺跡	寺院・神社	その他	小計
北海道・東北	26	5	14	12	1	14	72
関東	23	28	12	12	0	9	84
甲信越・北陸	35	13	18	16	1	12	95
東海	32	12	4	10	1	11	70
近畿	48	26	9	11	2	26	122
山陽・山陰	29	14	6	10	0	17	76
四国	39	4	1	2	2	6	54
九州・沖縄	11	19	3	7	0	5	45
小計	243	121	67	80	7	100	合計＝618

表2 中世和鏡の時期別出土遺跡数

	経塚	墓域・墓壙	居住区画	祭祀遺跡	寺院・神社	その他	小計
平安中期	4	7	12	7	0	7	37
平安後期	70	18	11	13	3	32	147
平安末期～鎌倉初頭	98	31	5	18	0	15	167
鎌倉時代	50	39	14	16	2	16	137
室町時代	21	26	25	26	2	30	130
小計	243	121	67	80	7	100	合計＝618

科学研究センターが提供している「CSV アドレスマッチングサービス」(<http://newspat.csis.u-tokyo.ac.jp/geocode/>)を使用した。

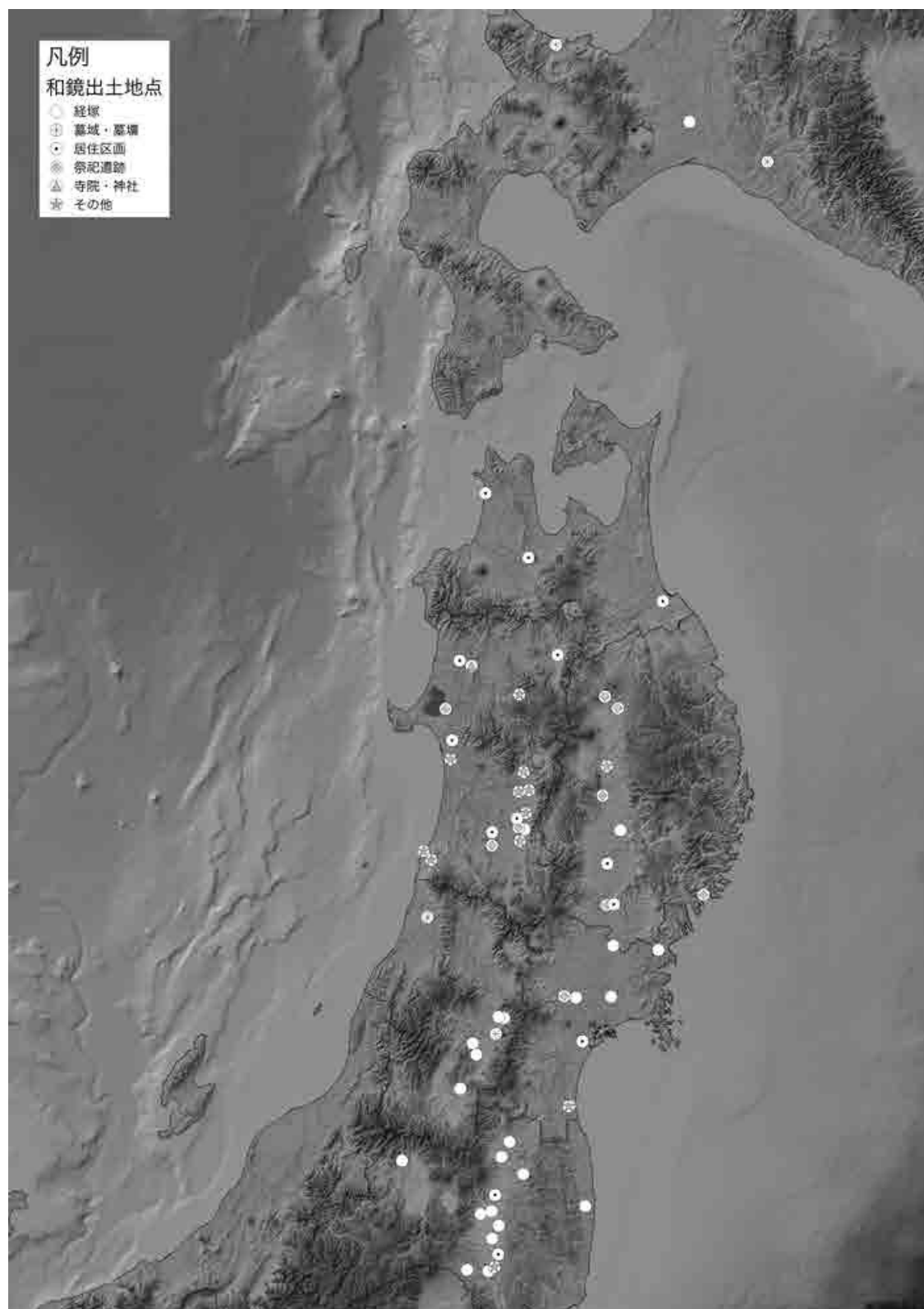
列島全体の傾向

前述したように、和鏡が出土した遺跡は現時点までに980遺跡が確認されている。そのうち中世和鏡が出土した遺跡は618遺跡であり、全体の約63%を占めている。地域別に618遺跡の分布をみると、中世和鏡が出土した遺跡は近畿地方が全体の約20%と最も多く、次いで甲信越・北陸地方が約15%、関東地方が約14%であった。

遺跡の性格は経塚が全体の約39%と最も多く、次いで墓域・墓壙が約20%、祭祀遺跡が約13%となっている。ただし、この順位は全ての地域に共通しているわけではなかった。例えば関東地方および九州・沖縄地方では、墓域・墓壙から出土する事例が最も多い。また居住区画から出土する事例は、北海道・東北地方、関東地方、甲信越・北陸地方に多い。このように和鏡が出土する遺跡の性格の順位は、地域によって違いがみられる。

中世5時期の内訳をみると、平安中期を除いた4時期で全体の約94%、581遺跡を占めていることが確認された。さらに遺跡の性格の上位である経塚、墓域・墓壙に着目すると、経塚は平安後期・平安末期～鎌倉初頭・鎌倉時代の3時期で全体の約90%を占め、墓域・墓壙は平安末期～鎌倉初頭以降の3時期で全体の約80%を占めていることが確認された。

(内川・鳥越)



第2図 北海道・東北地方

表3 北海道・東北地方における中世和鏡の出土遺跡数

北海道・東北地方	経塚	墓域・墓壙	居住区画	祭祀遺跡	寺院・神社	その他	小計
平安中期	0	0	2	3	0	1	6
平安後期	6	0	1	2	1	6	16
平安末期～鎌倉初頭	13	1	2	7	0	3	26
鎌倉時代	3	1	4	0	0	1	9
室町時代	4	3	5	0	0	3	15
小計	26	5	14	12	1	14	合計＝72

各地域の様相

【北海道・東北地方】

北海道・東北地方では、和鏡は72遺跡から出土しており全体の約12%である。中世に限定すると、和鏡は50遺跡から出土しており、地域全体の約70%を占めている。遺跡の性格としては、経塚が26遺跡で最も多く、地域全体の約36%を占め、居住空間約19%、祭祀遺跡約17%となっている。

中世5時期のうち、平安末期～鎌倉初頭で42遺跡、鎌倉時代で9遺跡が確認されており、この2時期で地域全体の約70%を占めている。遺跡の性格の内訳をみると、平安末期～鎌倉初頭では経塚が13遺跡と当該期の約50%を占めていることが確認された。平安中期から鎌倉初期にかけての祭祀遺跡は、12遺跡で、地域全体の約17%を占めている。実数は少ないが墓域・墓壙、居住区画出土資料は鎌倉・室町時代に増加傾向となっている。

以上の点から北海道・東北地方の中世和鏡は、中世前半は経塚、祭祀遺跡から、中世後半は墓域・墓壙、居住区画から出土する傾向が認められる。

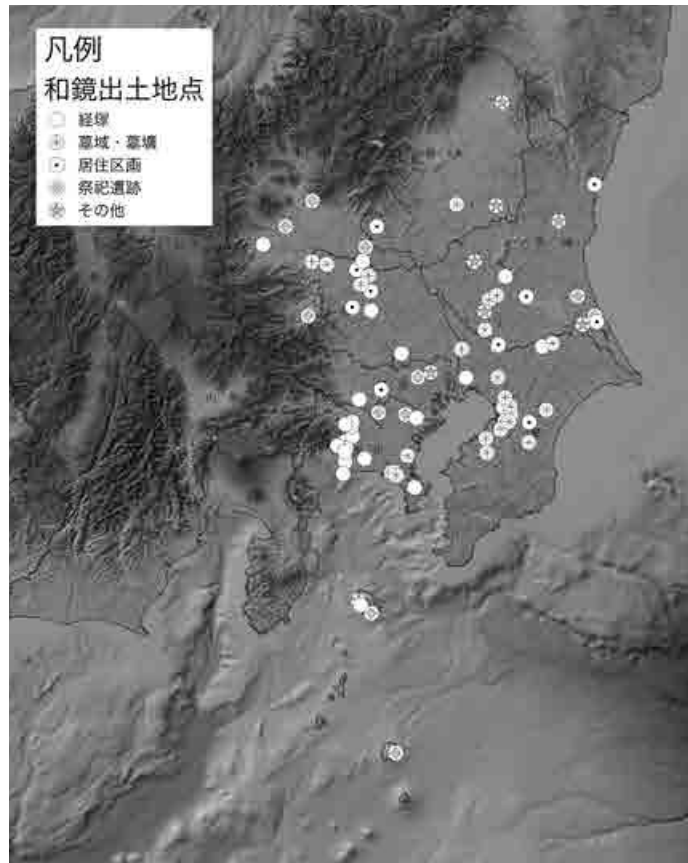
【関東地方】

関東地方では、和鏡は84遺跡から出土しており全体の約14%である。中世に限定すると、和鏡は62遺跡から出土しており、地域全体の約74%を占めている。遺跡の性格としては、墓域・墓壙が28遺跡で最も多く、地域全体の約33%を占め、経塚が23遺跡で地域全体の約27%を占める。居住空間、祭祀遺跡共に12遺跡となっており、それぞれ地域全体の約12%を占めている。

中世5時期のうち、平安末期～鎌倉初頭が30遺跡で、地域全体の36%を占めている。鎌倉時代、室町

表4 関東地方における中世和鏡の出土遺跡

関東地方	経塚	墓域・墓壙	居住区画	祭祀遺跡	寺院・神社	その他	小計
平安中期	1	1	3	1	0	0	6
平安後期	6	3	4	0	0	3	16
平安末期～鎌倉初頭	11	12	1	4	0	2	30
鎌倉時代	4	7	2	1	0	2	16
室町時代	1	5	2	6	0	2	16
小計	23	28	12	12	0	9	合計＝84



第3図 関東地方

時代がそれぞれ16遺跡で約19%となっている。経塚および墓域・墓壙に着目すると、経塚は平安後期で6遺跡、約26%、平安末期～鎌倉初頭で11遺跡、約48%、鎌倉時代で4遺跡、約23%であり、平安末期～鎌倉初頭の占める割合が突出している。また墓域・墓壙は、平安末期から鎌倉初頭が12遺跡、約43%、鎌倉時代が7遺跡、約25%を占め、室町時代は5遺跡18%であった。祭祀遺跡に関しては室町時代が6遺跡、約50%を占める。

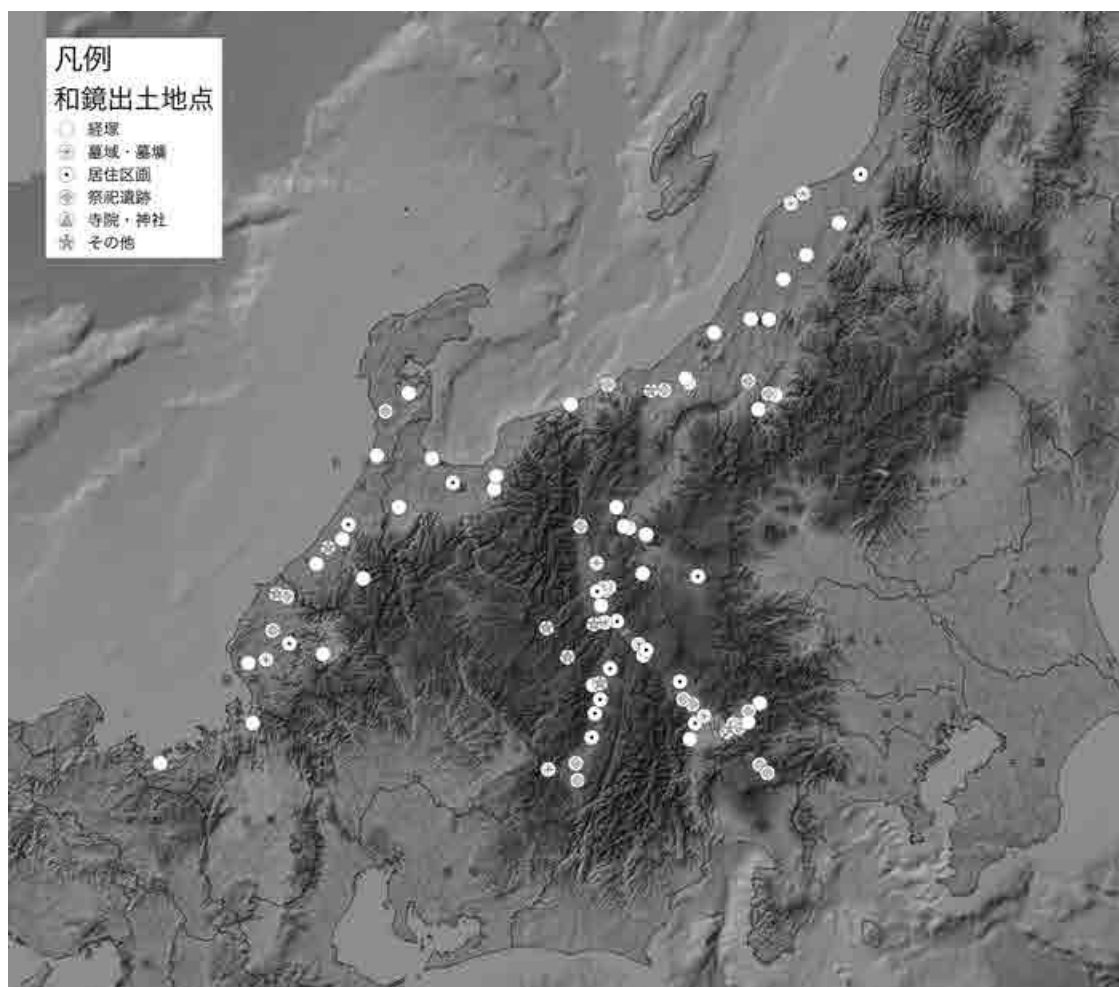
以上の点から関東地方の中世和鏡は、中世前半は主に経塚や墓域・墓壙からの出土が多く、後半は祭祀遺跡から出土する傾向が認められる。

【甲信越・北陸地方】

関東地方では、和鏡は95遺跡から出土しており全体の約15%である。中世に限定すると、和鏡は56遺跡から出土しており、地域全体の約80%を占めている。遺跡の性格としては、経塚が35遺跡で最も多く、地域全体の約37%を占め、居住区画が18遺跡で約19%、祭祀遺跡が16遺跡で約17%、墓域・墓壙が13遺跡で約14%を占める。

中世5時期のうち、平安後期が26遺跡で地域全体の約27%、平安末期～鎌倉初頭が24遺跡で、25%、鎌倉時代は21遺跡約22%、室町時代が18遺跡で約19%となっている。

経塚に着目すると平安末期から鎌倉初頭が16遺跡で約67%と突出し、鎌倉時代が8遺跡約23%、室町



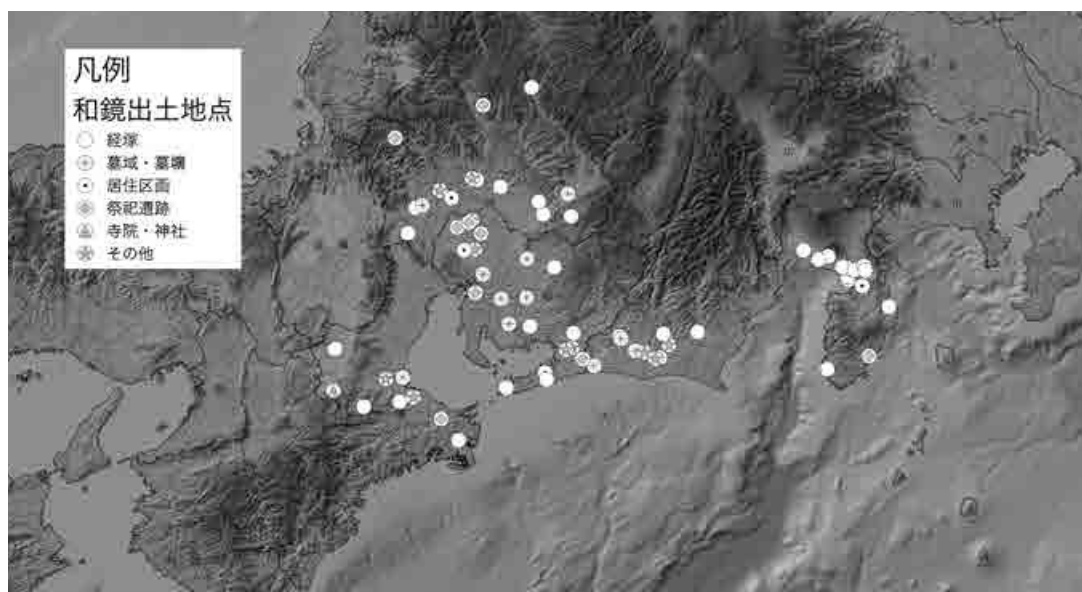
第4図 甲信越・北陸地方

表5 甲信越・北陸地方における中世和鏡の出土遺跡数

甲信越・北陸地方	経塚	墓域・墓壙	居住区画	祭祀遺跡	寺院・神社	その他	小計
平安中期	0	1	4	0	0	1	6
平安後期	6	6	3	4	0	7	26
平安末期～鎌倉初頭	16	0	2	5	0	1	24
鎌倉時代	8	4	3	4	0	2	21
室町時代	5	2	6	3	1	1	18
小計	35	13	18	16	1	12	合計＝95

時代が5遺跡約14%となっている。墓域・墓壙に関しては平安後期に多く認められ6遺跡で約46%を占める。また、居住区画での出土は、室町時代が6遺跡約33%と多く認められる。祭祀遺跡での出土は、平安後期から室町時代まで3～5遺跡で推移する。

以上の点から甲信越・北陸地方の中世和鏡は、中世前半は主に経塚や墓域・墓壙からの出土が多く、中世後半には居住区画での出土が比較的多く、祭祀遺跡からの出土は各時代平均的な出土状況を示している。



第5図 東海地方

表6 東海地方における中世和鏡の出土遺跡数

東海地方	経塚	墓域・墓壙	居住区画	祭祀遺跡	寺院・神社	その他	小計
平安中期	0	0	0	1	0	1	2
平安後期	8	0	0	0	0	4	12
平安末期～鎌倉初頭	12	4	0	2	0	0	18
鎌倉時代	8	5	0	1	1	2	17
室町時代	4	3	4	6	0	4	21
合計	32	12	4	10	1	11	合計=70

【東海地方】

東海地方では、和鏡は70遺跡から出土しており、全体の約17%を占めている。中世に限定すると、和鏡は56遺跡から出土しており、地域全体の約80%を占めている。遺跡の性格としては、経塚が32遺跡で最も多く、地域全体の約46%を占め、墓域・墓壙が12遺跡で約17%、祭祀遺跡が10遺跡で約14%、居住区画が4遺跡で約6%と少ない傾向を示す。

中世5時期のうち、平安後期が12遺跡で地域全体の約17%、平安末期～鎌倉初頭が18遺跡で、26%、鎌倉時代は17遺跡約25%、室町時代が21遺跡で約30%となっている。

経塚に着目すると平安末期から鎌倉初頭が12遺跡で約67%と突出し、鎌倉時代が8遺跡約23%、室町時代が4遺跡約13%となっている。墓域・墓壙に関しては平安末期以降に限定される。

また、居住区画での出土は、室町時代が4遺跡で約100%となっており、他地域に比べ多いのが特徴である。祭祀遺跡での出土は、室町時代6遺跡で地域全体の約60%を占める。

以上の点から東海地方の中世和鏡は、中世前半は主に経塚や墓域・墓壙からの出土が多く、中世後半には居住区画や祭祀遺跡からの出土が多くなる傾向を示している。

(内川・富山)



第6図 近畿地方

表7 近畿地方における中世和鏡の出土遺跡数

近畿地方	経塚	墓域・墓壙	居住区画	祭祀遺跡	寺院・神社	その他	小計
平安中期	2	4	2	1	0	3	12
平安後期	9	3	2	2	2	5	23
平安末期～鎌倉初頭	25	2	0	0	0	7	34
鎌倉時代	11	12	3	5	0	5	36
室町時代	1	5	2	3	0	6	17
小計	48	26	9	11	2	26	合計=122

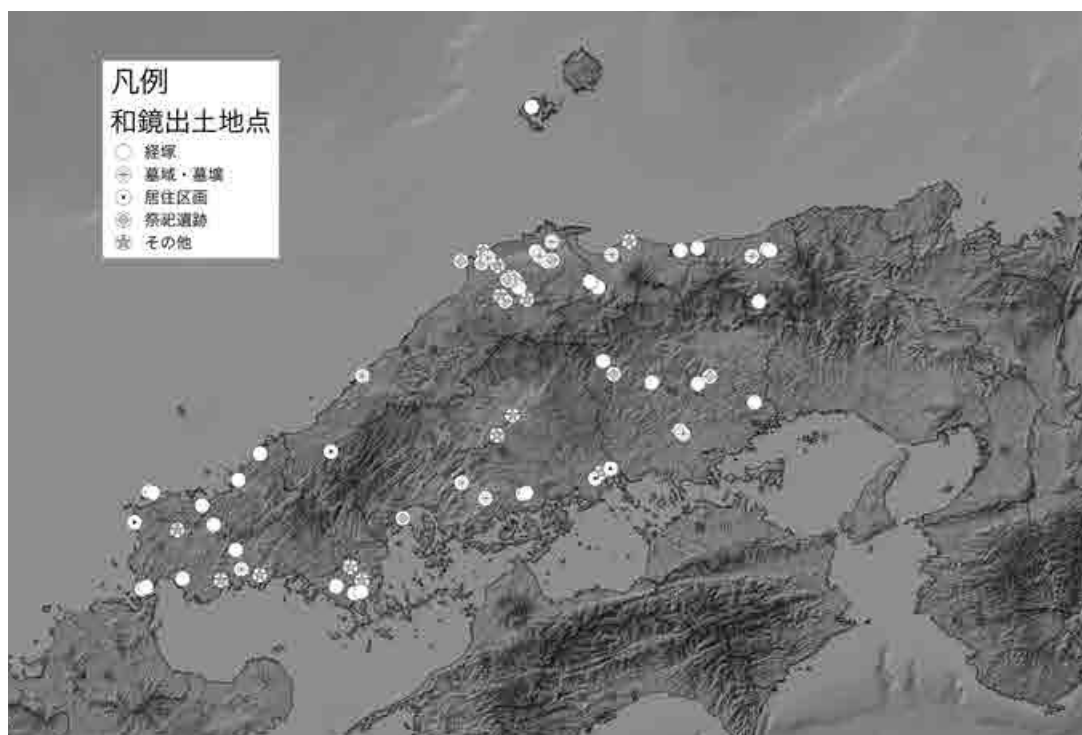
【近畿地方】

近畿地方では、和鏡は194遺跡から出土している。その数は8地方中最多であり、全体の約20%を占めている。中世に限定すると、和鏡は122遺跡から出土しており、地域全体の約20%を占めている。中世和鏡が出土した遺跡の性格をみると、経塚が48遺跡と最も多く、次いで墓域・墓壙の26遺跡、祭祀遺跡の11遺跡と続く。経塚および墓域・墓壙で全体の約61%を占めていることが確認された。

中世5時期のうち、平安末期～鎌倉初頭で34遺跡、鎌倉時代で36遺跡が確認されており、この2時期で全体の約54%を占めている。遺跡の性格の内訳をみると、平安末期～鎌倉初頭では経塚が25遺跡と当該期の約74%を占めているのに対し、鎌倉時代になると経塚および墓域・墓壙はほぼ同数であり、それぞれ当該期の約30～33%であった。

経塚および墓域・墓壙に着目すると、経塚は平安後期で約19%、平安末期～鎌倉初頭で約52%、鎌倉時代で約23%であり、平安末期～鎌倉初頭の占める割合が突出している。また墓域・墓壙は、鎌倉時代が約46%、次いで室町時代で約19%であった。

以上の点から近畿地方の中世和鏡は、中世前半は経塚から、中世後半は墓域・墓壙から出土する傾向



第7図 中国地方

表8 中国地方における中世和鏡の出土遺跡数

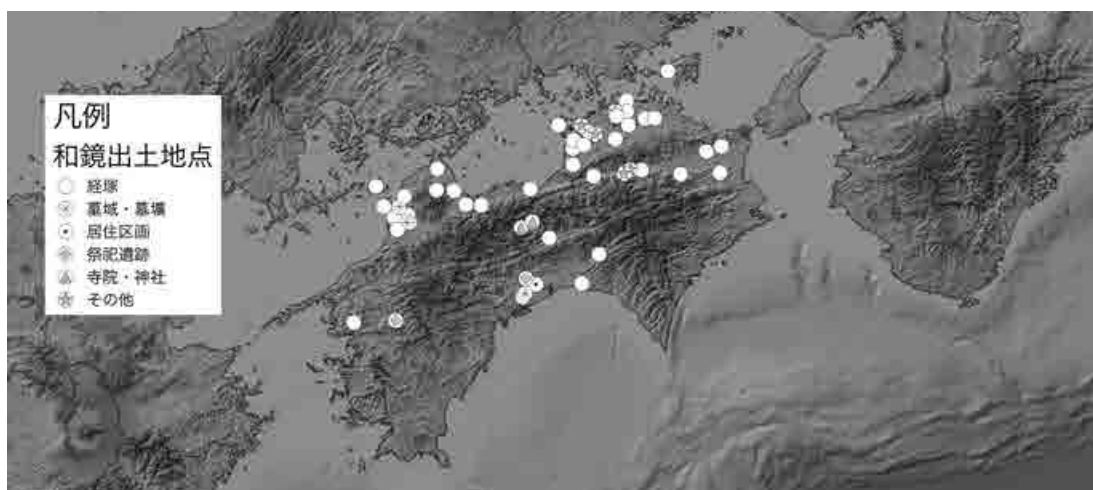
中国地方	経塚	墓域・墓墳	居住区画	祭祀遺跡	寺院・神社	その他	小計
平安中期	1	0	0	0	0	0	1
平安後期	15	3	1	4	0	3	26
平安末期～鎌倉初頭	6	3	0	0	0	2	11
鎌倉時代	4	3	1	0	0	1	9
室町時代	3	5	4	6	0	11	29
小計	29	14	6	10	0	17	合計＝76

があると言うことができよう。

【中国地方】

中国地方では、和鏡は111遺跡から出土している。その数は8地方中5番目の多さであり、全体の約11%を占めている。中世に限定すると、和鏡は76遺跡から出土しており、全体の約72%を占めている。中世和鏡が出土した遺跡の性格をみると、経塚が29遺跡と最も多く、次いで墓域・墓墳の14遺跡、祭祀遺跡の10遺跡と続く。経塚および墓域・墓墳で全体の約57%を占めていることが確認された。

中世5時期のうち、平安後期で26遺跡、室町時代で29遺跡が確認されており、この2時期で全体の半分近くを占めている。遺跡の性格の内訳をみると、平安後期では経塚が15遺跡と当該期の約58%を占めているのに対し、室町時代になると、経塚が3遺跡、墓域・墓墳が5遺跡、居住区画が4遺跡、祭祀遺跡が6遺跡とほぼ同数であり、それぞれ当該期の約10～20%であった。



第8図 四国地方

表9 四国地方における中世和鏡の出土遺跡数

四国地方	経塚	墓域・墓壙	居住区画	祭祀遺跡	寺院・神社	その他	小計
平安中期	0	1	0	0	0	1	2
平安後期	16	0	0	0	0	3	19
平安末期～鎌倉初頭	10	1	0	0	0	0	11
鎌倉時代	11	0	0	2	1	2	16
室町時代	2	2	1	0	1	0	6
小計	39	4	1	2	2	6	合計=54

経塚および墓域・墓壙に着目すると、経塚は平安後期が約52%と最も多く、次いで平安末期～鎌倉初頭の約21%であった。経塚は平安後期が最も多いことになる。墓域・墓壙は、実数でみると平安中期を除いて3～5遺跡程度であるため、現時点では時期による増減傾向があるとは言い難い。

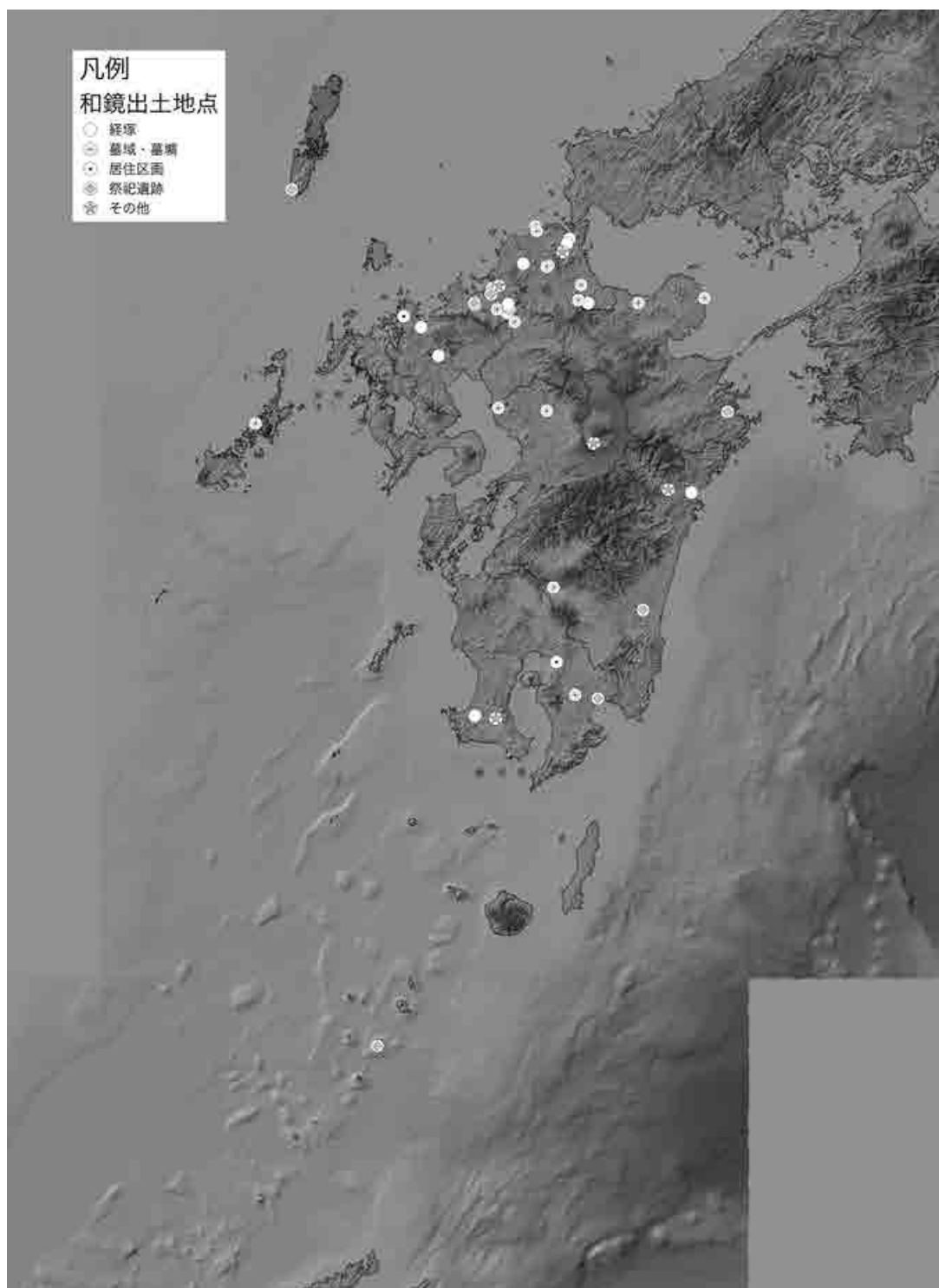
以上の点から中国地方の中世和鏡は、平安後期の経塚を除くと、経塚と墓域・墓壙とで著しい差があるとは言い難い。平安後期の経塚への集中を、中国地方の中世和鏡の特徴として挙げることができよう。

【四国地方】

四国地方では、和鏡は76遺跡から出土している。その数は8地方中8番目であり、全体の約8%を占めている。中世に限定すると、和鏡は54遺跡から出土しており、全体の約9%を占めている。中世和鏡が出土した遺跡の性格をみると、経塚が39遺跡、次いで墓域・墓壙の4遺跡であり、経塚の出土事例が圧倒的に多い。

中世5時期のうち、平安後期で19遺跡、平安末期～鎌倉初頭で11遺跡、鎌倉時代で16遺跡であり、この3時期で全体の約85%を占めている。遺跡の性格の内訳をみると、経塚が11～16遺跡と最も多く、他の性格の遺跡は1～2遺跡程度であった。

経塚に着目すると、経塚は平安後期が約41%と最も多く、次いで鎌倉時代の約28%、平安末期～鎌倉初頭の約26%であった。実数からみると鎌倉時代と平安末期～鎌倉初頭ではほぼ同数であるため、平安



第9図 九州・沖縄地方

表10 九州・沖縄地方における中世和鏡の出土遺跡数

九州・沖縄地方	経塚	墓域・墓壙	居住区画	祭祀遺跡	寺院・神社	その他	小計
平安中期	0	0	1	1	0	0	2
平安後期	4	3	0	1	0	1	9
平安末期～鎌倉初頭	5	8	0	0	0	0	13
鎌倉時代	1	7	1	3	0	1	13
室町時代	1	1	1	2	0	3	8
小計	11	19	3	7	0	5	合計＝45

後期から平安末期～鎌倉初頭にかけて減少するものの、鎌倉時代までは大きな変化はなく、室町時代になって激減する、という傾向がみられることになる。

以上の点から四国地方の中世和鏡は、経塚から出土する事例が多く、さらに平安後期から鎌倉時代にかけての時期に集中すると言えよう。

【九州・沖縄地方】

九州・沖縄地方では、和鏡は79遺跡から出土している。その数は8遺跡中7番目であり、全体の約8%を占めている。中世に限定すると、和鏡は45遺跡から出土しており、全体の約57%を占めている。中世和鏡が出土した遺跡の性格をみると、墓域・墓壙が19遺跡と多く、次いで経塚が11遺跡、祭祀遺跡が7遺跡であった。墓域・墓壙および経塚で全体の約67%を占めていることになる。

中世5時期のうち、平安末期～鎌倉初頭および鎌倉時代でそれぞれ13遺跡が確認されており、次いで平安後期の9遺跡、室町時代の8遺跡と続く。従って九州・沖縄地方では、平安末期～鎌倉初頭および鎌倉時代で全体の約58%を占めていることになる。

前述したように九州・沖縄地方では、他の地域と違って経塚より墓域・墓壙からの出土事例が多い。さらに詳しくみると、経塚では平安後期および平安末期～鎌倉初頭に出土事例が集中しており、墓域・墓壙では平安末期～鎌倉初頭および鎌倉時代に出土事例が集中していることが確認された。

以上の点から九州・沖縄地方の中世和鏡は、他の地域と違って墓域・墓壙からの出土事例が多いということを特徴として挙げることができよう。ただし時期的な変化を見ると、経塚からの出土事例は平安後期および平安末期～鎌倉初頭に集中し、墓域・墓壙からの出土事例は平安末期～鎌倉初頭および鎌倉時代に集中している。時期別のこのような傾向は近畿地方に近いことを指摘しておく。

なお、地域設定の都合から九州・沖縄地方として一括したが、現在のところ沖縄では、中世に相当する時期から和鏡は出土していないことを申し述べておく。(鳥越)

結びにかえて

以上、8地域における出土和鏡の時期的、性格別の出土傾向をのべた。

遺跡数からみた列島全体の傾向としては近畿地方が122遺跡で全体の約20%を占め、甲信越・北陸地方、関東地方、北海道・東北地方、東海地方と続くことが明らかとなった。つまり近畿地方以東で実に

443遺跡、72%を占める一方、近畿地方以西では175遺跡、28%と少なく、特に四国地方では54遺跡、九州・沖縄地方では45遺跡と極めて少ない傾向にある。

遺跡の性格からみた列島全体の傾向としては、和鏡は経塚からの出土事例が243遺跡で全体の約39%を占め、次いで墓域・墓壙が121遺跡で全体の約20%、祭祀遺跡が80遺跡で全体の約13%と続く。和鏡は宗教性の高い遺跡から出土していることが改めて確認されたことになる。

また、和鏡が出土する遺跡の性格の順位には地域性がみられることも確認された。例えば、関東地方および九州・沖縄地方では墓域・墓壙が経塚を上回っている。北海道・東北地方および甲信越・北陸地方では、経塚に次いで事例が多かったのは居住区画であり、墓域・墓壙は3番目であった。さらに四国地方では、経塚からの出土事例が極めて多く、それ以外では特筆するほどの違いはみられなかった。結局、列島規模で確認された経塚、墓域・墓壙、祭祀遺跡という順位は、近畿地方、東海地方、中国地方でしか確認されなかったことになる。

このように本基礎情報では、和鏡の出土事例は近畿地方以東に多いこと、和鏡が出土する遺跡の性格の順位には地域性がみられることを明らかにすることができた。今回、地図上に和鏡が出土した遺跡の分布を示しているが、今後の方向性としては、よりマクロな視点で様々な地理情報、歴史情報を分析内容に組み入れ、和鏡流通の実態に迫りたいと考えている。

なお本基礎情報では、『全国和鏡出土集成 平成16年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）研究成果報告』を中心に、発掘調査報告書、県史・市町村史、博物館展示図録、『月刊文化財出土情報』に掲載された新聞記事などから、中世和鏡が出土した遺跡を抽出している。しかし今回は、紙面都合から遺跡名や出典を掲載することを控え、遺跡数および統計データを呈示するに留めた。遺跡名や出典は、機会を設けて改めて報告したい。

(内川・鳥越)

- 1) 國學院大學学術資料センター客員研究員
- 2) 國學院大學大学院博士課程前期
- 3) 國學院大學研究開発推進機構教授